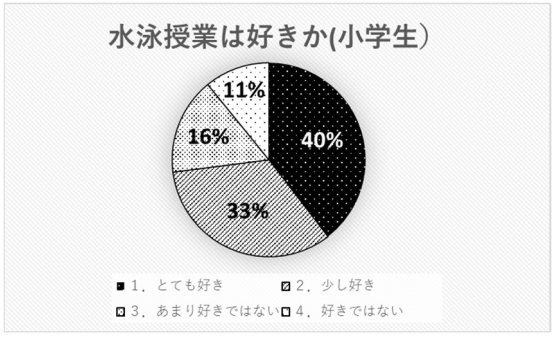
教育部　教育課

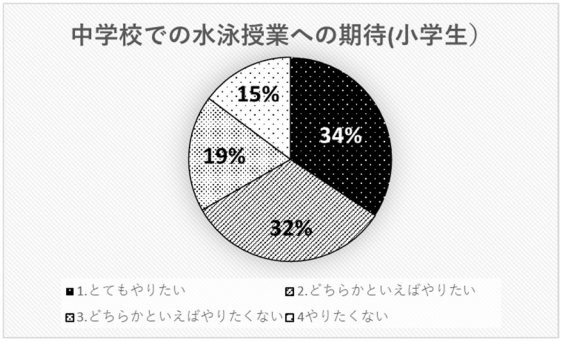
中学校における水泳授業のあり方（アンケート結果の概要）について

昨今、全国の公立中学校において水泳の実技授業(以下、「水泳授業」とする)を廃止する動きがあります。その背景として、老朽化した学校プールの維持管理費の増大、天候等の影響による計画的な授業実施の困難性と安全確保の必要性等の課題が指摘されています。江南市は、これらの課題に対し、児童生徒の水泳授業の機会を確保するため、民間事業者の屋内プールの活用に取り組んでいますが、この先の活用枠拡大は限界があります。

こうした中、令和8年5月に実施しました、小学校5年生から中学校3年生までの児童生徒と、その保護者の皆様を対象としたアンケート結果＜概要＞については、以下のとおりです。

小学校5・6年生

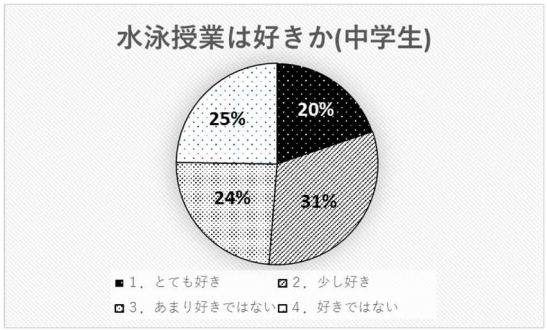


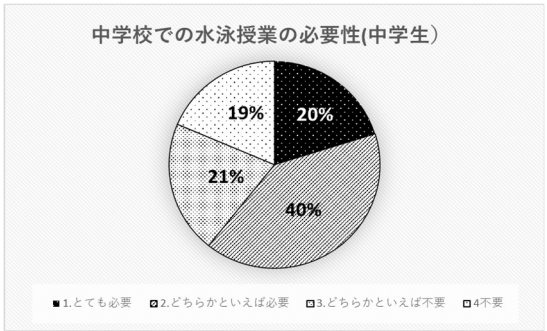


・「あまり好きではない」「好きではない」理由は、多い順に「泳ぐことが苦手」、「水着になりたくない」、「暑い・寒いのがつらい」となっています。

・中学校での水泳授業について、「さまざまな泳法で泳ぎたい」、「もっと泳げるように頑張りたい」、「プールや更衣室をきれいにしてほしい」等の意見があります。

中学校1・2・3年生





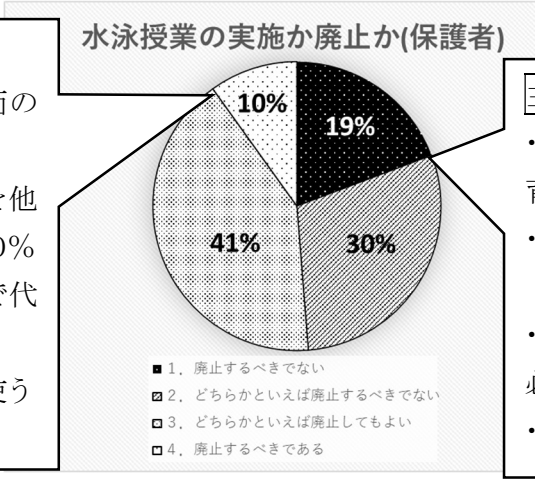
・「あまり好きではない」「好きではない」理由は、多い順に「泳ぐことが苦手」、「水着になりたくない」、「暑い・寒いのがつらい」となっています。

・中学校での水泳授業について、「着衣泳や水難事故防止を学ぶことが大切」「泳力に応じた授業や男女別の授業をしてほしい」等の意見があります。

保護者

主な理由

・子どもの心理的・体調面の負担が大きい　34%
・維持管理費や改修費を他の教育施策に使うべき　30%
・民間スイミングスクールで代替できる　18%
・授業時間を他教科に使うべき　14%



主な理由

・水難事故防止のための教育として重要　36%
・体力づくり、健康面で有益　22%
・水泳をする機会の確保が必要　26%
・技能として必要　16%

・「現在の授業回数では泳力習得は難しい」、「コロナ禍で水泳授業がなかった世代なので、ぜひ水泳授業を望みたい」、「プール維持費をスイミングスクールに通う補助に回してはどうか」、「利用可能なプールを複数校で利用したり、プール授業の期間を延ばしたりして、今できる対策を検討してほしい」などの意見があります。

アンケート結果から見えてきたこととは何ですか？

水泳授業について「とても好き」「少し好き」と、小学校5・6年生（以下、小学生）の約7割、中学校1・2・3年生（以下、中学生）の約5割が回答しています。また、**水泳授業に約6割の小学生が期待しており、約6割の中学生が必要性を感じています。**

保護者の方々からは、水泳授業について「廃止すべきでない」「どちらかといえば廃止すべきでない」と約5割の回答があり、水難事故防止と体力づくり・健康面での有益というのがおもな理由です。一方、「どちらかといえば廃止してもよい」「廃止すべきである」との回答も約5割を占め、子どもの心理面・体調面の負担、維持管理費や改修費の使い道などがおもな理由です。

さらに、25メートル以上泳げるのは小学生で約5割、中学生で約6割である一方、**ほとんど泳げない小学生・中学生がいずれも約3割いることがわかりました。**そして、授業以外でのスイミングスクールを利用した経験のない小学生・中学生が、約5割いることもわかってきました。

Q　今回のアンケート結果を踏まえ、江南市教育委員会は中学校における水泳授業のあり方について、どのように協議を重ねていくのですか。

A　江南市小中学校長会とも協議する中、**中学校の水泳授業を廃止する場合には、**児童生徒と保護者の皆様の水泳授業への期待感と必要性に応えることのできる機会の確保策を検討するとともに、スクール水着やラッシュガード等、水泳授業の準備品購入に十分に配慮した期間を設けるなどして、**児童生徒・保護者への丁寧な説明と周知に努めていかねばなりません。令和10年度からの廃止か、継続かの方針を、江南市総合教育会議や教育委員会会議において、慎重に協議してまいります。**なお、児童生徒の泳力習得や水難事故防止のための着衣泳体験などの関する課題についても手立てを協議しているところです。

教育部　教育課

江南市教育委員会としての方針（案）

1. 中学校における水泳の実技授業についての方針

学校名	水泳の実技授業の方向性
古知野中学校	**継続**（施設が使用を継続できる状況にあるため）
布袋中学校 宮田中学校 北部中学校 西部中学校	**令和 10 年度から廃止** （施設の老朽化により適切な水泳場の確保が困難であるため）

※小学校における水泳の実技授業は継続。

2. 水泳授業を廃止する場合の代替案などの策定

（1） 夏季休業期間中における民間事業者の屋内プールの開放

児童生徒、そして保護者の水泳授業への期待感と必要性に応えていくために、水泳授業を廃止する学校に通う生徒を対象とした、水泳指導を含む泳ぐ機会の確保を民間事業者の屋内プールを活用して、夏季休業期間中に複数回実施する方法を検討する。

（2） 教師の実技指導力の向上

「ほとんど泳げない」児童生徒が約3割いる。教師の実技指導力の向上により小学校で泳げる児童数を増やすことを目的に、民間事業者による教師への実技指導講習会の実施を検討する。

（3） 水難事故防止など安全教育への取り組み

中学校の水泳の実技授業が廃止になった場合でも、水泳の事故防止に関する心得は、必ず座学で学ぶ。いざというときに自分や仲間の命を守れるよう知識を身に付ける機会を設ける。現在、着衣泳講習は実施していないが、保護者からのアンケート結果に着衣泳講習を望む意見があったことから、民間プールの事業者や近隣の小学校で、着衣泳講習が実施できないか検討していく。

なお、小学校の授業においても、着衣泳講習を受けることができるよう、講師派遣事業に積極的に申し込むように働きかけていく。また、民間事業者の屋内プールを活用している学校については、着衣泳講習を授業で行うことを依頼していく。

<u>※(1)(2)(3)についての財源は、水泳授業を廃止した場合のコスト減の一部を活用する。なお、予算化できることなら(2)(3)については前倒しの試行を検討したい。</u>

水泳授業を廃止した場合、中学校4校の大規模改造工事のコスト削減額は1億4,500万円と試算している。また、年間維持費（水道料、薬剤、保守委託、水質検査料、修繕費等）は、800万円の削減となる。

議題3（別紙）中学校における水泳の授業のあり方について スケジュール（案）

